

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 53

Toots Thielemans【トーツ・シールマンズ】

～ジャズ・ギタリスト&ハーモニカ奏者として活躍した巨人～



Photo: "The Real... Toots Thielemans"/Toots Thielemans (Legacy Recording)

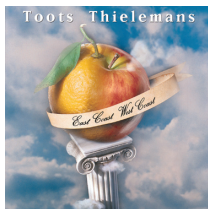
Profile

1922年4月29日ベルギー・ブリュッセル生まれ。本名は Jean-Baptiste Frédéric Isidore "Toots" Thielemans。シールマンズ男爵 (baron Thielemans) の称号を持つベルギー貴族でもある。3歳の頃からアコーディオンの演奏を始め、その後ハーモニカも吹き始める。10代の頃からギターを始め、ジャンゴ・ラインハルトやチャーリー・パーカーに憧れ、次第にジャズにのめり込んでいった。40年代にギタリストとして音楽活動をはじめ、ギターを弾きながらハーモニカを吹くスタイルで注目されるようになる。50年にベニー・グッドマンのヨーロッパ・ツアーに参加し、52年にアメリカへ移住。チャーリー・パーカー・オールスターズのメンバーとして念願だったチャーリー・パーカーとの共演を果たす他、ジョージ・シアリング・クインテットにも参加。その後もエラ・フィッツジェラルド、クインシー・ジョーンズ、ビル・エヴァンス等と共演。ジャズ以外にもポール・サイモンやビリー・ジョエル等と共演する等、ポピュラー音楽やCM音楽でも活躍。80年代にはフュージョンやR&Bのアーティスト達とも共演。ジャコ・パストリアスの“ワード・オブ・マウス・ビッグ・バンド”で「オーレックス・ジャズ・フェスティバル 1982」に参加し、ジャコとヨーロッパ・ツアーも行う。83年にはビリー・ジョエルのアルバム『イノセント・マン』に参加し、収録曲の「夜空のモーメント」でハーモニカを披露。92年から93年にかけて、ブラジル音楽をテーマとした作品を発表。パット・メセニーとの共演も話題となる。2014年3月にコンサートの予定をキャンセルし、音楽活動からの引退を発表。2016年8月22日、ケガのため入院していたベルギーの病院で老衰のため死去。享年94歳。

TT's Great Album

この3枚のアルバム以外にも、ジャズ・ギタリスト時代の作品も含めて数々のリーダー・アルバムが残されており、サイドマンとして参加した作品にも数々の名演が残されている。

トウーツが東海岸と西海岸で豪華メンバーと録音した傑作



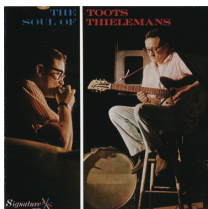
イースト・コースト、ウェスト・コースト トウーツ・シールマンズ

(ソニー・ミュージック：SICJ-273)

トウーツ・シールマンズ (harm)、ハービー・ハンコック、ライル・メイズ (p)、チャーリー・ヘイデン (b)、他

1. ナイマ 2. イン・ウォークド・パド 3. ディア・オールド・ストックホルム 4. ゲルヴイン・ハイ 5. コン・アルマ (他、全13曲)

レイ・ブライアント・トリオとのビ・バップ色溢れるトウーツの名作



ザ・ソウル・オブ・トウーツ・シールマンズ トウーツ・シールマンズ

(ワーナーミュージック：WPCR-29283)

トウーツ・シールマンズ (harm, g), レイ・ブライアント (p), トミー・ブライアント (b), オリヴァー・ジャクソン (ds)

1. ユー・アー・マイ・サンシャイン 2. 雲 3. ファイヴ・オクロック・ホイッスル 4. ソウル 5. ロンサム・ロード 6. ミスティ (他、全9曲)

トウーツの代表曲「ブルーゼット」の初演の音源が聴けるアルバム



トウーツ トウーツ・シールマンズ

(ワーナーミュージック：WPCR-17585)

トウーツ・シールマンズ (harm, g, whis)、アルネ・ドムネルス (as), ピート・ジャックキーズ、ヤン・ヨハンソン、(org)、他

1. ザ・マウンテン・ウィスラー 2. 遥かなるアラモ 3. ベンテコスタル・フーリング 4. ムーンライト・タンゴ 5. ラスト・デイト (他、全14曲)

トウーツがNY(東海岸)とLA(西海岸)で1994年に録音したセッションを収録したアルバム。東海岸からはライル・メイズ、クリスチャック・マクブライド等、西海岸からはハービー・ハンコック、チャーリー・ヘイデン等、豪華なメンバーが参加し、「ディア・オールド・ストックホルム」「ジャイアント・ステップス」「ワルツ・フォー・サウルス」等、スタンダードを中心に13曲を披露。“ハーモニカの巨人”の真録と雰囲気も充実。

1959年録音。1曲目の「ユー・アー・マイ・サンシャイン」をはじめ、「ソウル」「ブラザー・ジョン」とトウーツのファンキーなブレインに、同時期に名盤『レイ・ブライアント・ブレイズ』をレコーディングしたレイ・ブライアントが同作品のトリオで参加している点にも注目。ハーモニカとギターを通じて、トウーツが10代の頃に憧れたバードやジャンク・ラインハルトへの思いも感じる。正にトウーツの魂を感じるビ・バップなアルバム。

2016年にリマスターされた1961年発表の名作。トウーツはハーモニカとギターに加えて、得意の口笛も披露している。ハイライトはスウェーデンのメロノーム・レーベルに残したトウーツの代表曲「ブルーゼット」の初演音源。トウーツの日本愛も感じる「ゲイシャ・ブルース」。作品のラストを飾るソニー・ロリンズがポール・チェンバースに捧げた「ポルズ・バル」もいい。 Hammond・オルガンも取り入れ、14曲を収録した充実の内容。

ハーモニカおじさん

洋酒やブリヂストンタイヤ等、日本のTVCMにも出演し、“ハーモニカおじさん”の愛称で親しまれたトウーツ。“トウーツ”というニックネームはトウーツ・モンデルロとトウーツ・カマラタに由来。1962年には名曲「ブルーゼット」を作曲し、テレビ番組『セサミ・ストリート』でのハーモニカ・ソロの名演でも知られる。日本人アーティストとの縁も深く、レベッカのアルバム『ブロード・サウルス』に収録の「リトル・ダーリン」、久保田利伸のアルバム『ボンガ・ワンガ』に収録の「ラヴ・アンダー・ザ・ムーン」等でハーモニカを披露している。

ジョン・レノンもリスペクト

ザ・ビートルズのジョン・レノンといえば、ギター&ヴォーカル以外にハーモニカもトレードマークで、数々の名演・名曲を残しているが、ジョンが愛用していたショート・スケール型のハーモニカ(リッケンバックモデル #325)こそ、トウーツの影響によるものだ。1959年、ビートルズがデビュー前にドイツのハンブルクを巡業していた際、現地のクラブにジョージ・シアリング・クインテットのメンバーとして出演していたトウーツの演奏に魅せられ、当時トウーツが使っていたリッケンバックのショート・スケール型を使うようになったと言われている。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.26

~ Ornithology [オーニソロジー] ~

この曲はチャーリー・パーカーとトランペッターのベニー・ハリスによる共作で、1946年にチャーリー・パーカーがダイアル・レコードで初演を吹き込んでいるが、1940年に書かれた「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」のコード進行をもとに作られた曲。「鳥類学」というタイトルの意味は、チャーリー・パーカーのニックネーム「バード」に由来。チャーリー・パーカーの名演を筆頭に数々のジャズ・アーティストが取り上げ、名スタンダードの1曲として高い人気を誇る。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- チャーリー・パーカー『チャーリー・パーカー・ストーリー・オン・ダイアル Vol.1』
- バド・パウエル『ジ・アメイジング・バド・パウエル Vol.1』
- レッド・ミッチェル『ジャム・フォー・ユア・ブレッド』
- バリー・ハリス『ブレイキン・イット・アップ』
- ジョシュア・レッドマン & ブラッド・メルドー『ニアネス』